

令和5年度
少子化対策に関するアンケート調査
報告書

令和5年8月

富士市

1. 調査の目的

本市では、本市における少子化対策に関する施策を具体的かつ総合的に推進するため、「はぐくむF U J I 少子化対策プラン」を令和3年3月に策定し、位置付けた施策を計画的に実施している。

しかしながら、本市において少子化の進行に歯止めが掛からない状況が続いていることから、少子化対策に関する市民の意見やニーズを把握し、今後の施策の参考とするため、本アンケート調査を実施する。

2. 調査概要

調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した富士市民 3,500 人 ※5 歳級別、男女別に抽出した 20 歳～44 歳
調査方法	郵送によるアンケート調査票の配布、Web による回答
回答数	1,172 人（回答率 33.5%）
実施時期	令和 5 年 7 月～8 月

3. アンケート調査の結果

(1) 回答者の概要

1. 性別

選択肢	回答数	割合 (%)
男	374 人	32%
女	780 人	66.6%
その他	1 人	0.1%
回答しない	17 人	1.5%
合計	1,172 人	

2. 年齢

選択肢	回答数	割合 (%)
20 歳～24 歳	149 人	12.8%
25 歳～29 歳	220 人	18.8%
30 歳～34 歳	255 人	21.8%
35 歳～39 歳	276 人	23.6%
40 歳～44 歳	252 人	21.6%
45 歳～	20 人	1.8%
合計	1,172 人	

3. 既婚・未婚

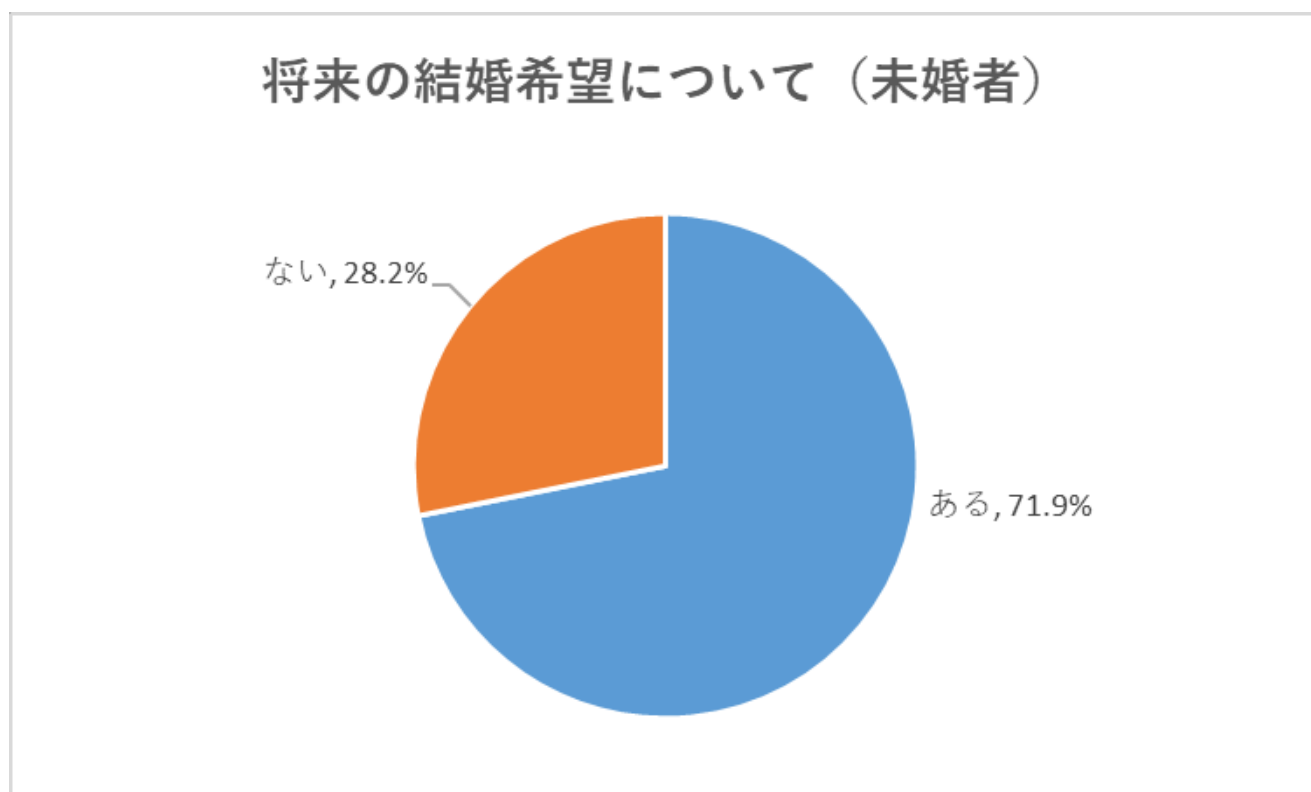
選択肢	回答数	割合 (%)
既婚	789 人	67.4%
未婚	340 人	29.1%
離婚・死別	43 人	3.7%
合計	1,172 人	

4. 子どもの人数

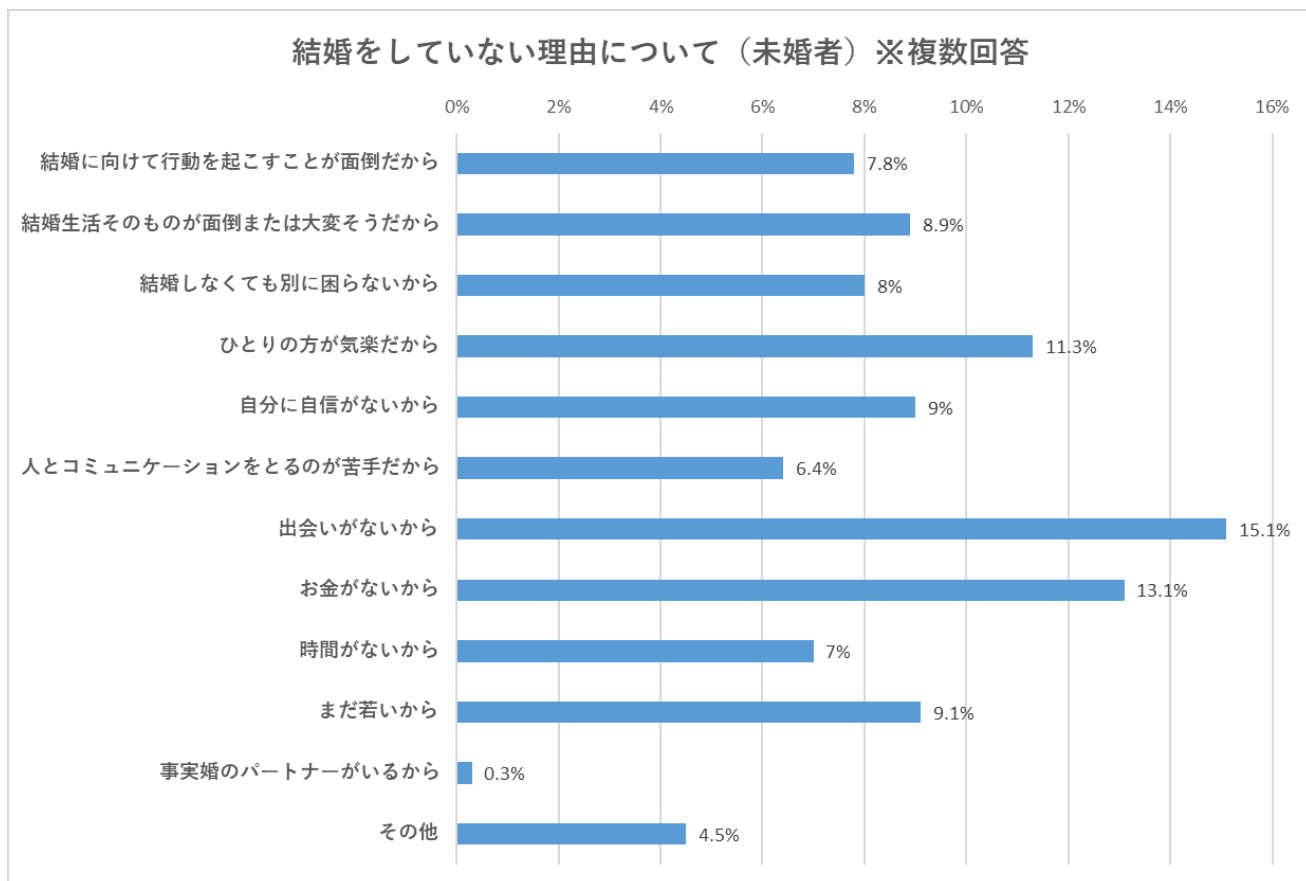
選択肢	回答数	割合 (%)
0 人	487 人	41.6%
1 人	258 人	22.1%
2 人	303 人	25.9%
3 人	108 人	9.3%
4 人	14 人	1.2%
5 人以上	2 人	0.2%
合計	1,172 人	

(2) 【結婚と子育てについて】

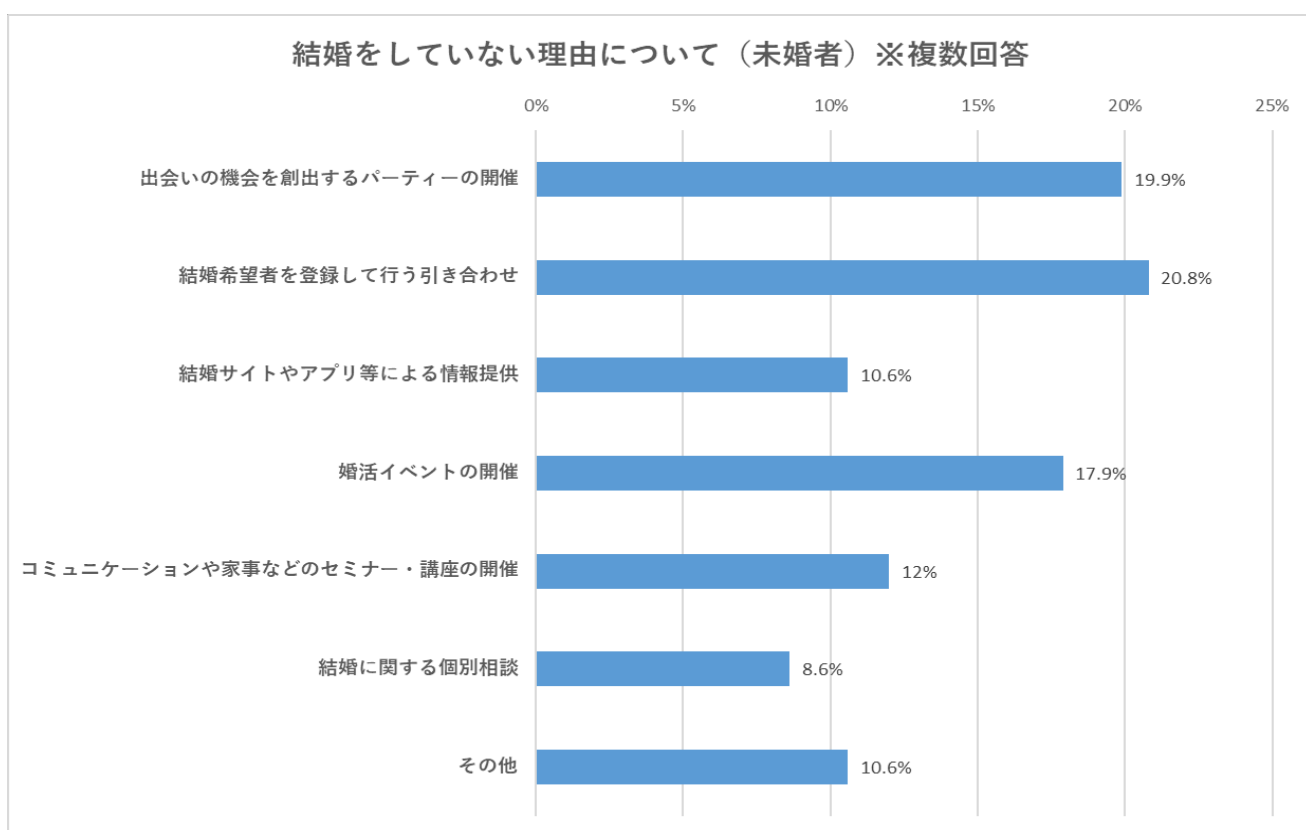
1. 将来の結婚希望について教えてください。(未婚者のみ)



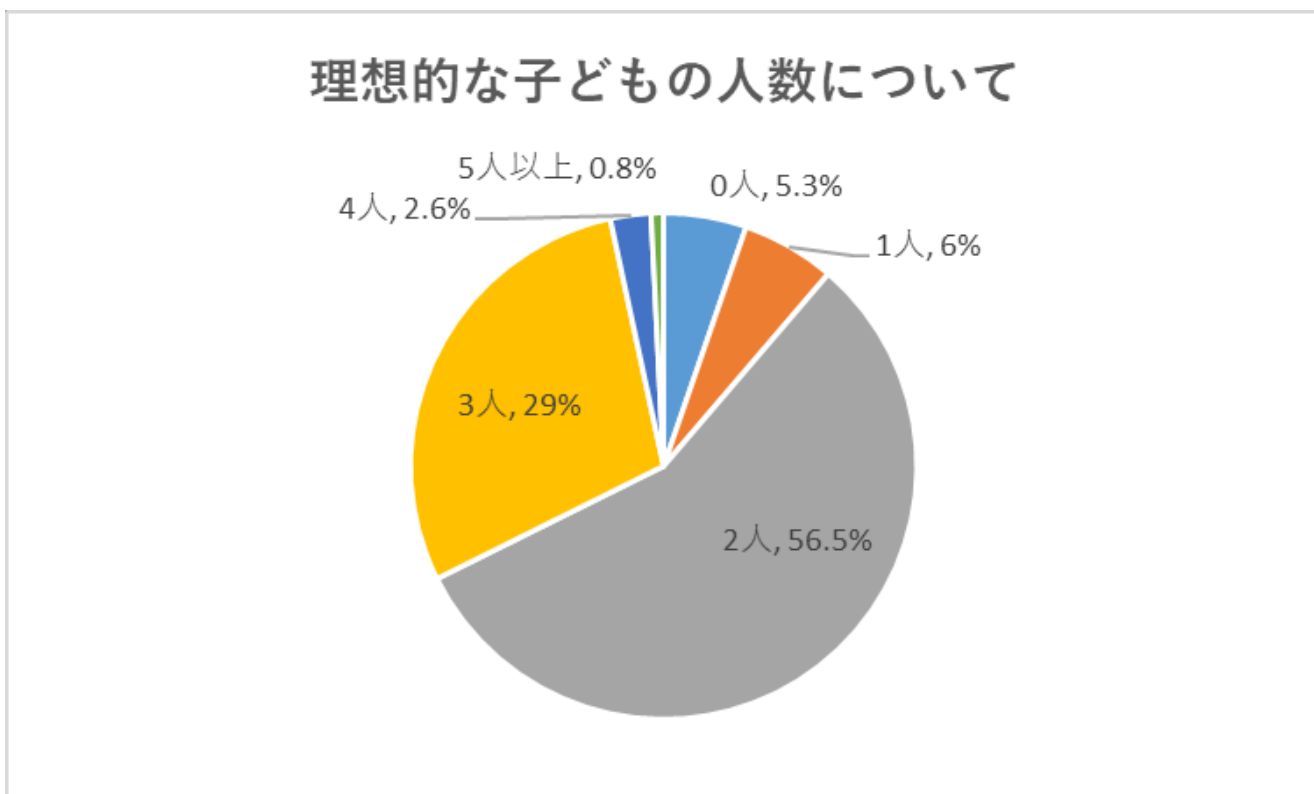
2. あなたが結婚をしていない理由を教えてください。(未婚者のみ) ※複数回答可



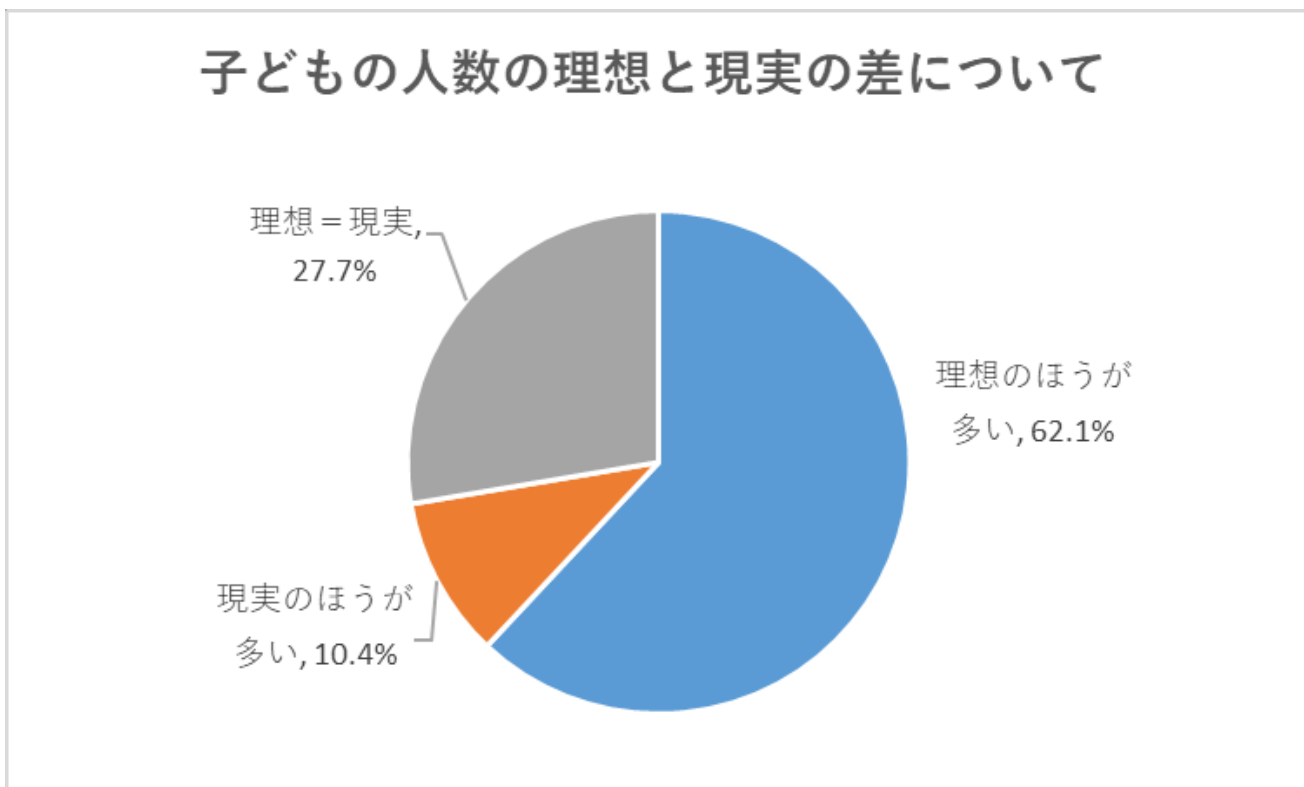
3. あなたが行政に対して期待する結婚支援サービスを教えてください。(未婚者のみ) ※複数回答可



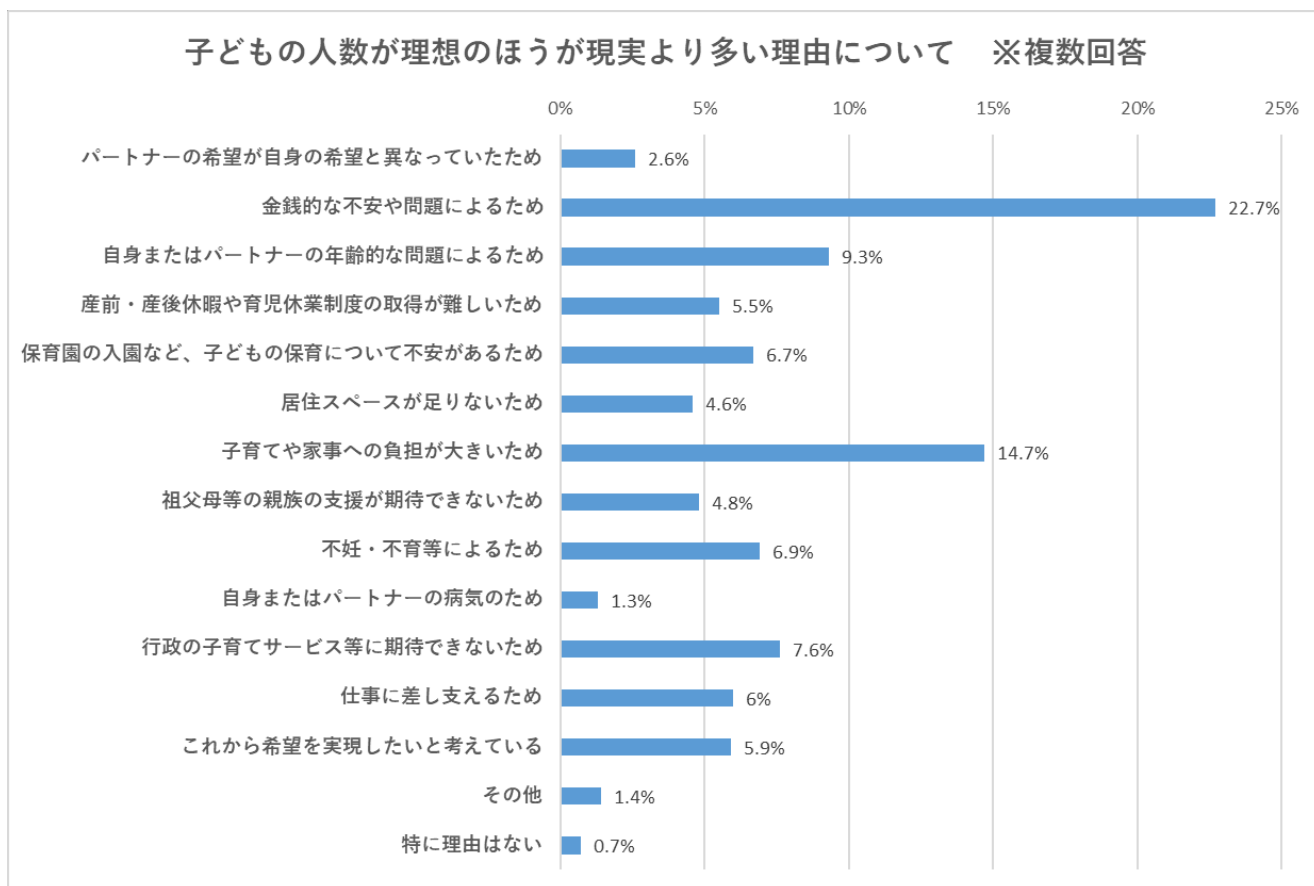
4. 理想的な子どもの人数を教えてください。



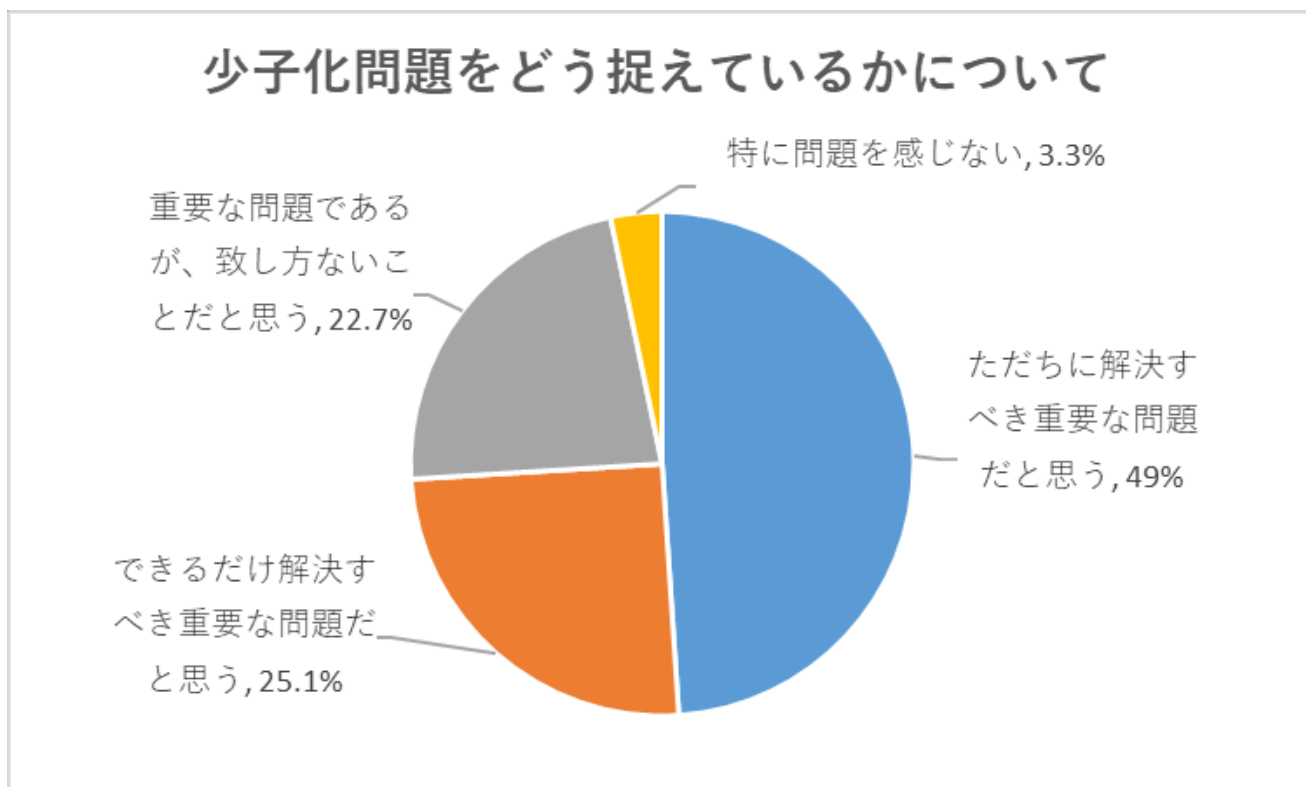
5. 子どもの人数について、理想と現実に差がありますか？（既婚者のみ）



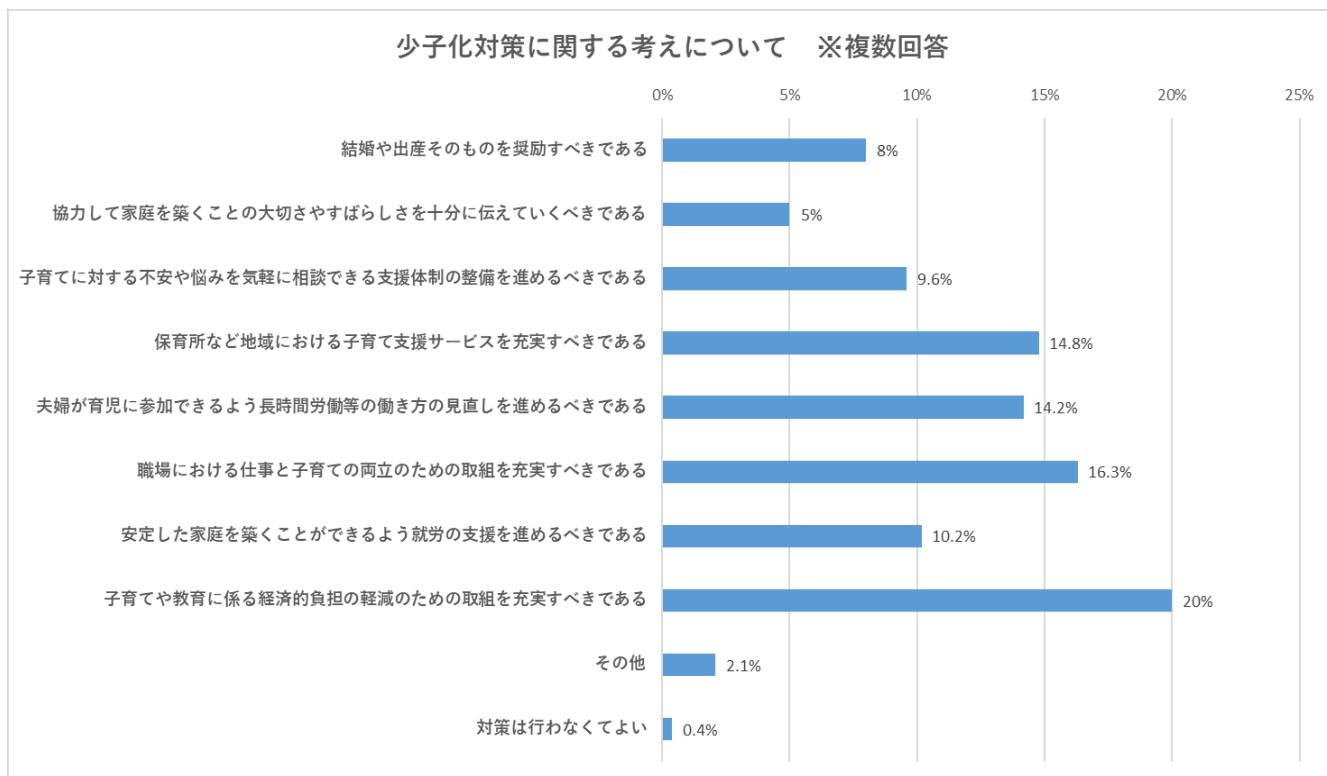
6. 子どもの人数について、理想のほうが多いと回答した理由は何ですか？ ※複数回答可



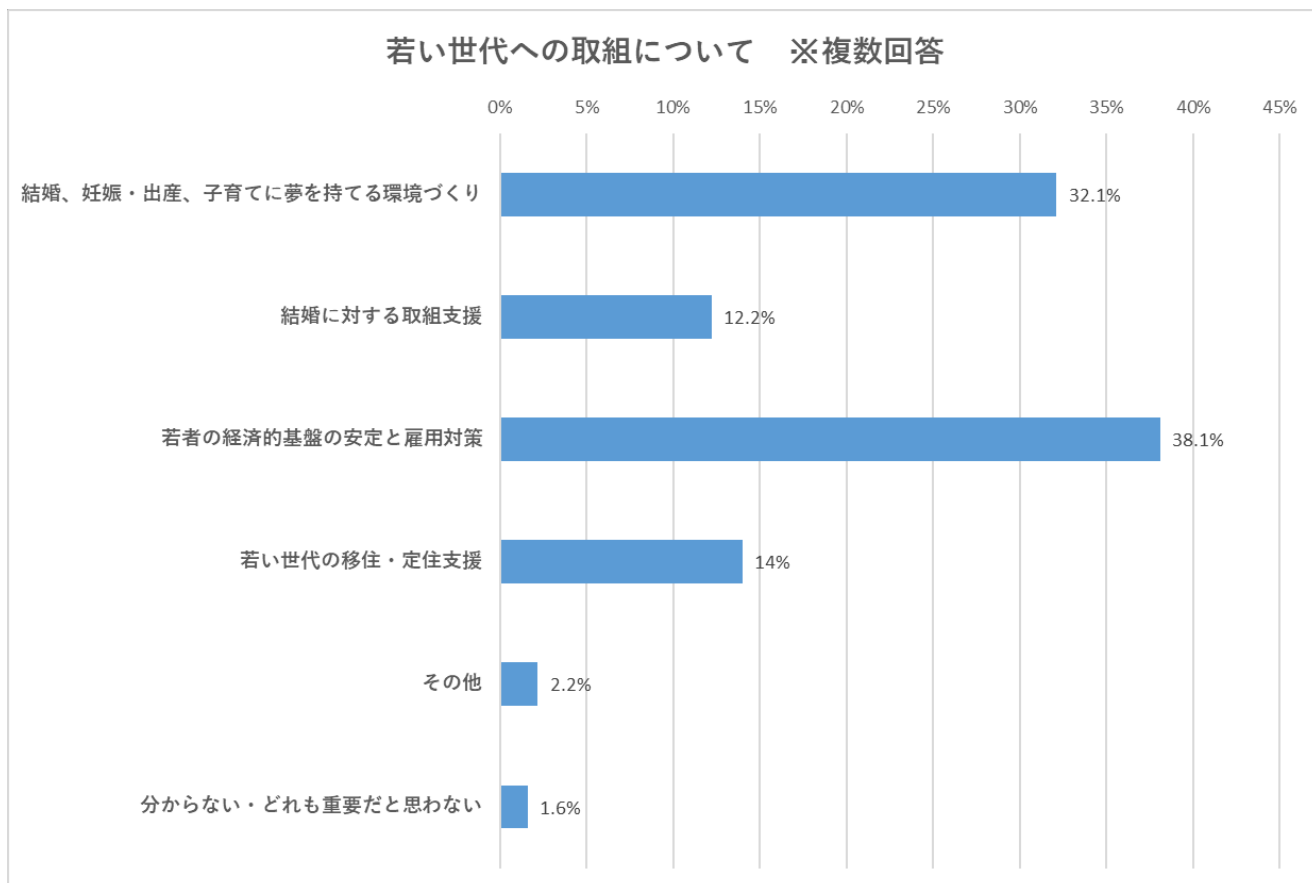
7. 日本全国で少子化が急速に進行していますが、あなたは少子化問題をどのように捉えていますか？



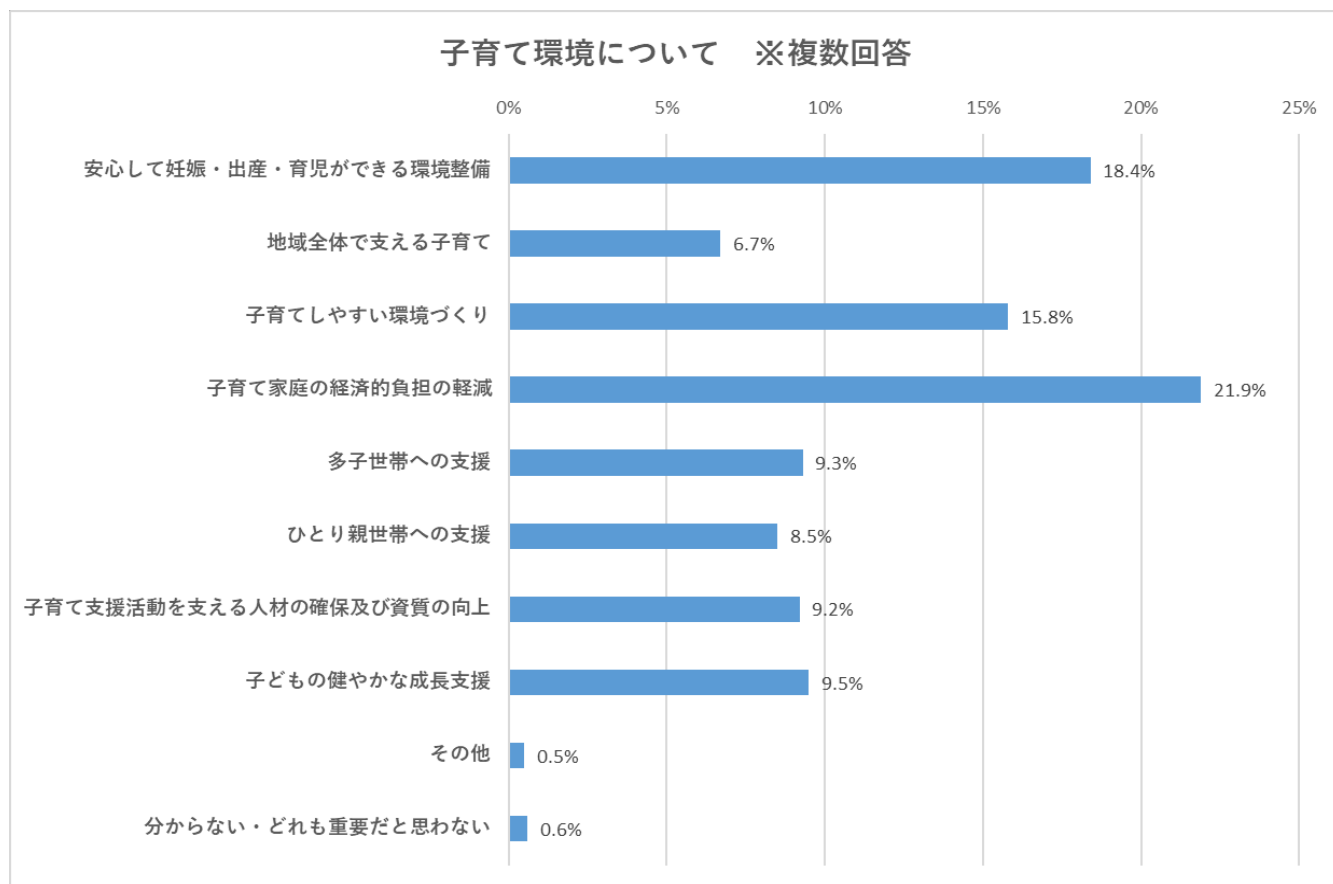
8. あなたは、少子化対策について、どのような考えをお持ちですか？ ※複数回答可



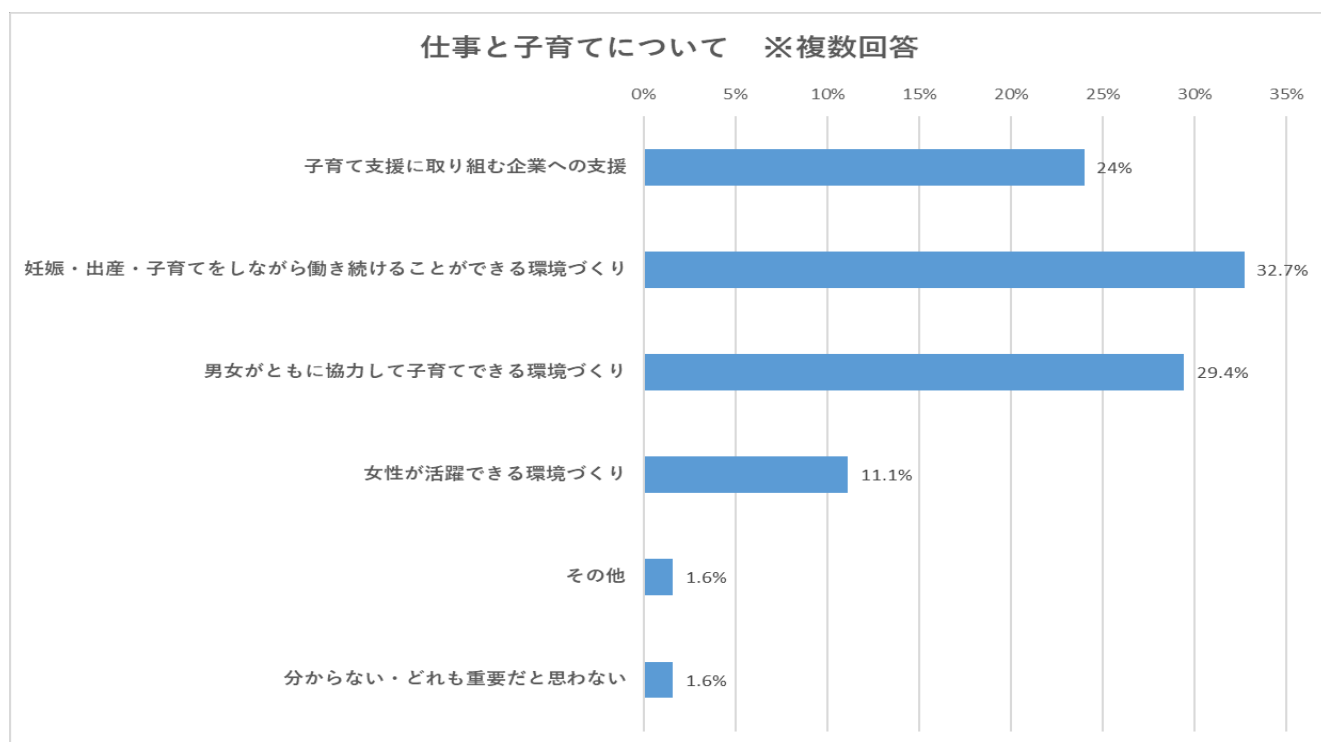
9. 次の少子化対策のうち、若い世代への取組について、あなたが重要だと思う取組を教えてください。 ※複数回答可



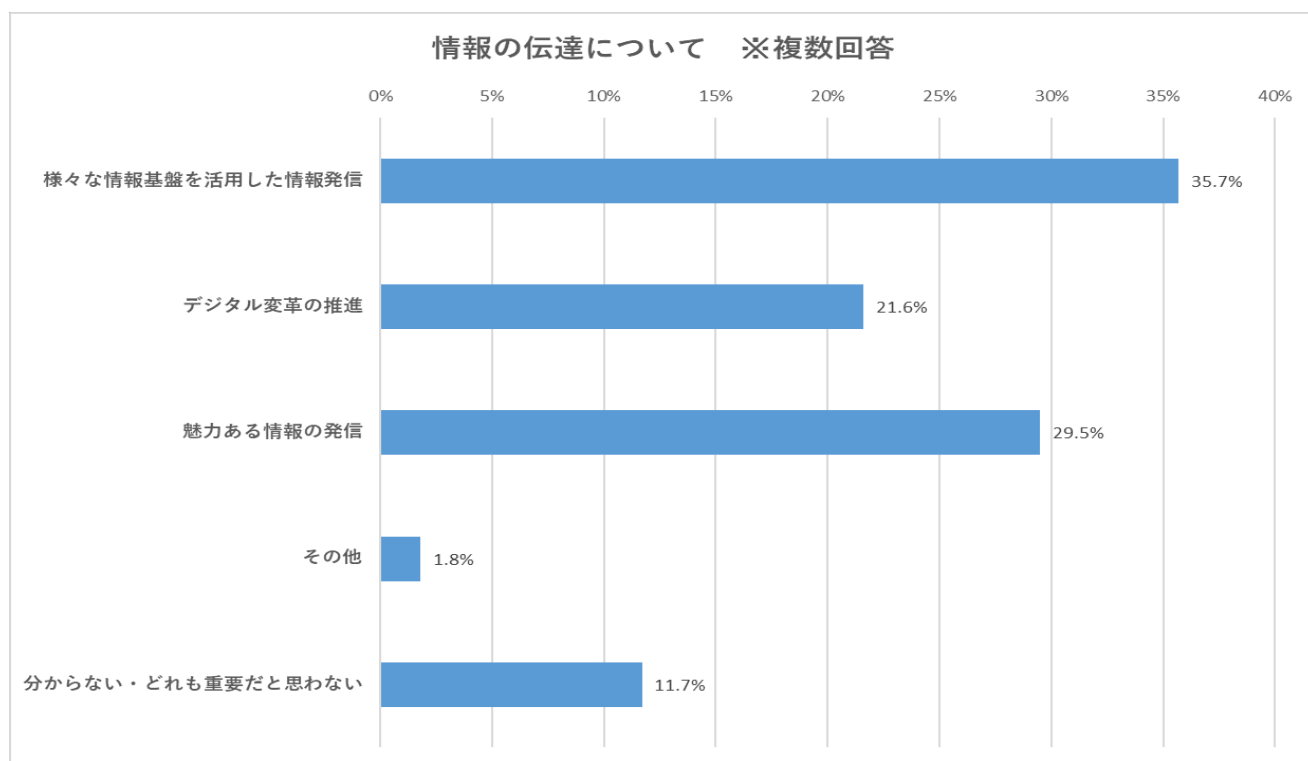
10. 次の少子化対策のうち、子育て環境について、あなたが重要だと思う取組を教えてください。
 ※複数回答可



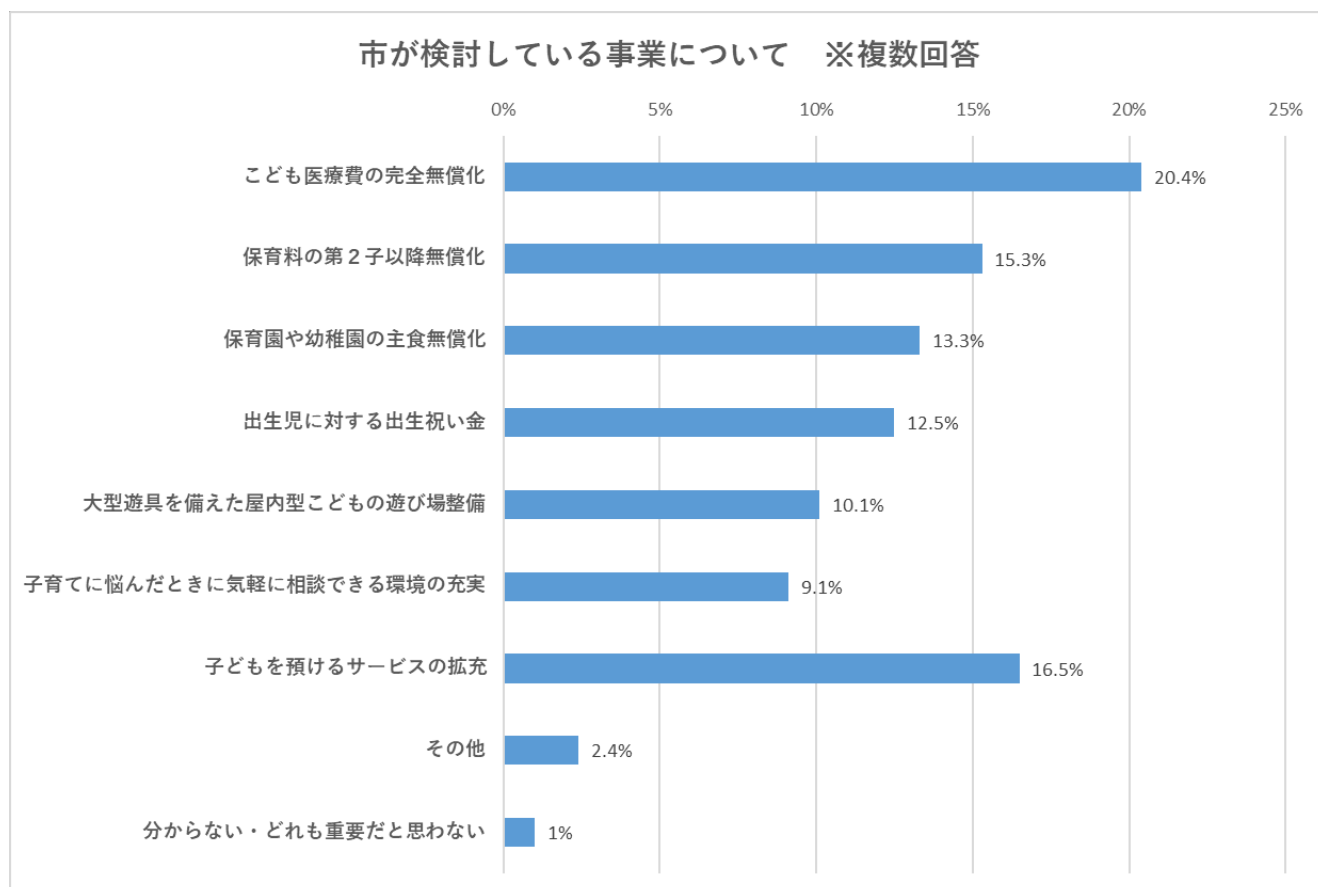
11. 次の少子化対策のうち、仕事と子育てについて、あなたが重要だと思う取組を教えてください。
 ※複数回答可



12. 次の少子化対策のうち、情報の伝達について、あなたが重要だと思う取組を教えてください。
 ※複数回答可



13. 少子化対策として市が検討している事業を含めた、次の選択肢のうち、優先的に取り組むべきと思うものを教えてください。 ※複数回答可



【各設問における「その他」の回答（抜粋）】

2. あなたが結婚をしていない理由を教えてください。（未婚者のみ）

- お付き合いしている人がいますが、お金を貯めている最中です。
- パートナーと結婚準備中
- パートナーの仕事が軌道に乗るまで待っている
- ひとり親であることやこれまで母親がパートナーと上手くいってないのを見てきたから結婚が良い事だと思ってない。同じ空間や一緒に男の人(父親等)が居るという感覚が分からない。男の人が怖い。
- 家族が精神障害を患っているから
- 家庭（子）に対する責任が取れないから
- 改姓が面倒だから、夫婦別姓制度がないから、結婚補助金が少額だから
- 近日結婚をする予定がある
- 結婚するメリットが見つからない
- 結婚制度に魅力を感じない
- 事実婚で十分だと思うため
- 持病の療養中のため、結婚という選択肢が自分の中にないため
- 自分のやりたい事が制限されるから
- 社会的にメリットを感じないから
- 将来的に両親な介護をする必要があるため
- 親の反対
- 相手への信頼が足りない
- 他に優先してやりたい事があるから
- 同性結婚が認められてないから

3. あなたが行政に対して期待する結婚支援サービスを教えてください。（未婚者のみ）

- お金の支援
- お祝い金
- 結婚や出産への支援を手厚くしてほしい
- パートナーシップ制度で終わってしまうのではなく、異性婚と同様の内容で同性婚の制度を導入してほしい
- 一般と同じく同性愛者の結婚支援
- 家事ができない高齢の親をサポートする制度
- 結婚、出産に関する支援の充実
- 結婚による資金面の補償や免除
- 結婚見舞金や住宅購入の際の手当など
- 結婚後の金銭的支援
- 結婚支援は求めていない

- 結婚資金や子供ができた時にかかるお金の負担を軽くする制度
- 結婚祝い金もしくは助成金
- 行政に期待するものはない
- 婚活や恋人探しという名目ではない、友達と気軽に参加できる若者イベント
- 手厚い子育て支援
- 選択的夫婦別姓制度の新設、及び国への働きかけ
- 補助金制度、家賃補助などの金銭的な援助とその情報の周知

6. 子どもの人数について、理想のほうが多いと回答した理由は何ですか？

- 3人も産んだら、子どもがある程度大きくなるまで長く、職場復帰が困難になりそう。高等教育の費用の負担も大きい。単純に子ども3人を育てるバイタリティが夫婦共にない。
- こどもを不自由なく大学へ通わせるためには3人となると難しくなるから。ゆとりを持った生活を送らせてあげたいから2人が現状です。
- タイミングが合わなかった
- パートナーとのコミュニケーション不足
- やはり支出の問題は大きい。学校に3人通わせる【公立であっても】かなり大きな出費をしている。給食費がせめて無償化されれば少し余裕が出るのではないだろうか。
- 今の世の中に子供を産んで、子供が幸せに生活出来るか不安
- 仕事を休むということへのためらい
- 子どもは欲しいが、金銭面的にも厳しい
- 自然に任せた結果、授からなかったのでそのまま現在に至ります。夫も私も子供を持つことを強く希望していたわけではないため、検査や不妊治療などもしませんでした。
- 子供にかかる金額は所得関係ないのに、所得制限で手当等が貰えないため
- 数才差(2歳、3歳くらい)を希望しているが、育休から復帰して(1歳代で)すぐに産休をとるのが気まじい
- 増税ばかりで子供達の未来がない
- 日本の未来に不安があるため
- 悲しい現実ですが、なんと言ってもお金が問題のため
- 保育料が高いため

8. あなたは、少子化対策について、どのような考えをお持ちですか？

- お金・時間の余裕が気持ちの余裕につながり、少子化加速を鈍化させると考える。
- お金がないので、自分が生きていくのに精一杯。子供の将来を考えると産まない方が良い。
- こどもが欲しくても金銭的な理由や仕事の都合で諦めている方が周りにたくさんいる。生まれた後の支援ではなく、妊娠までの取り組みを充実させれば少子化対策になると思う。
- こどもの教育に関わる仕事(保育士や教師)の給与を上げて、就労人数を増やし、各職場の人員を増加させて各人の負担を軽減させるべき

- これまでも、選択肢にあるような対策を行なっているが、効果は出ていないと思われる。大学卒業まで無償化とするなど、本当に少子化対策を考えているのであれば、振り切った施策が必要だと思う。個人的には、今の少子化対策では、少子化の進行は止めることはできないため、少子社会における施策を行政として考えて行くべきであると思う。
- そもそも、女性が働かないとやっていけない時代なわけだから、そうなれば育児が大変になり少子高齢化が深刻化するの当たり前だと思うし、どんな対策をされても変わらないと思う。
- そもそもわざわざ結婚する、子供を持つことのメリットを感じている人が少なくなっていることが問題だと思う。自分たちが大変な思いをしてまで子供を持つとは思わない。3人目は保育料がタダになるとか、医療費が500円とか、もちろんいろいろな補助金やサポート制度があるのはとても助かるが、それはあくまで子育て支援だけであって、本気で少子化対策をなんとかしようと思うなら子供を持つことが、むしろ独身、子供がいない家庭よりもメリットが大ききような異次元政策を実施すべき。例えば子供がいれば新築を建てたら半額免除されるとか、車の購入も半額免除とか。人生生きていくうえで、一人で生きるよりも子供がいるほうが金銭面に余裕が生まれるような政策。勿論現実的な話ではないが、異次元とはそういうこと。
- とにかく子供を持つまでのハードル高い。全体の経済対策がなければ無理。本当に困っている人には届かないような施策ばかり。もっとスピード感を持った施策実行を。全体の社会のシステムを根本から変える必要がある。現状を理解して、当事者に近い人に考えを委ねてほしい。
- 医療費は無償化、保育園や幼稚園も無償化すべき。働く全ての親が短時間であったり、看護休暇などを当たり前にとることができなければ安心して子育てをする事はできないし、働こうにも肩身が狭い思いをするだけ。そういった働き方改革を進めてからでないと少子化対策はできないし、上辺だけ取り繕っても根本が解決されなければ問題は解決しない。
- 育休をとると、キャリアがマイナスになっていくので、子供を産み、育てするのをためらってしまう。その対策が欲しい。
- 育児のサポートを受けるにも手続きなど大変。児童手当も貰えるだけありがたいが、実際もっとお金が掛かる。足りない。お金の掛かってくる年頃になると給付が無くなるのは、どうかと思う。子どもの将来の学費や、現在の生活を良くするために仕事もフルで頑張り、家事育児もしているのに、所得の少ない家庭ばかり色々な給付を優先されていて理不尽に思う。自身の心身を犠牲にしてまで、努力して生活水準をあげようとしているのに所得が上がれば上がるほど税金は取られ、給付金や補助は受けられなくなり、頑張っている人が報われない日本はおかしい。今は女性もがんがんと働きたい時代。世のため人のためになりたくてそれが生き甲斐で仕事している人もいる。子育てが、それを邪魔するのがわかっているから少子化が進むのではないかと思う。私も子ども三人産んだが、現実には子育てが辛い。親子心中のニュースを見ると、明日は我が身だと思う。子ども一人の時がどんなに楽だったかと今なら思う。相談しても大変なのは今だけだよと何十回も聞いた。一番嫌いな言葉になった。今が辛いから先なんて見えない。子どもがいなかったら、自分のやりたいことをやりたい時にできるのにと心から思う。子どもは可愛いけど、可愛いだけでは育てられない。外面だけ良い父親なんてゴロゴロいる。近所から見たら、私の夫だって、協力的で優しく見える。現実を皆はわかっていない。ワンオペみたいなお母さんの声をもっと聞くべき。孤独と育児の辛さで悩んでいる母親が沢山いると思う。地域でも支援するべき。子を沢山産めと言う前に、まずそちらを何とかするべきではないか。
- 一時的な金銭支援をされたところで、大して家計は楽にならないし、そんなことで子どもを作ろうと思えない。

- 一般企業でも育児休業を3年まで取れるような制度があればいい。
- 核家族化による孤立育児の大変さが分からない限り、本当の対策とは言えないと思う。
- 学生のうちから、ライフプランや妊娠、出産、子育てについての正しい知識を学ぶ事も将来的に少子化対策に繋がっていくと思う
- 機械の自動化などを推し進めて、少子化になっても成り立つ社会を創るべき
- 給与も少ない、何もかも税金。お金に余裕がなければ結婚も出来ない。変えるにも変えられないでしょう。
- 給料の増額、タダ働きの廃止、税金の減額
- 教育以外にも経済的不安がありすぎて、変な政策ばかりだし。少子化対策どころではない
- 結婚してもいいかなと思える社会作りが必要。小さい子どもに対する給付が多いが、お金がかかるのは高校、大学なのでそこに支援が必要。
- 結婚や子供の手当が薄い
- 結婚や出産は個人が決めるものだと思うが、したくてもできない人に対しては支援をするべきだと思う。
- 結婚を促進することも大切だが、第1子出産後の夫婦のその後の出産計画を肯定的にとらえる社会的な考えの浸透
- 結婚後のサポートを手厚くするのも大事だが、そもそも結婚に至っていない人たちをどうするかを考えてもいいのかもしれない。
- 結婚妊娠よりもその前の段階、日本の政治や未来に希望がなくそもそも余裕などでない、独り身や、子無し夫婦が増えても仕方ない。目先の対策ではなく、国民が暮らしやすく安心して暮らせる国にするべき。若い世代だけの問題ではない。
- 減税すべきです。また、教育費の無償化。世帯年収制限なし。お金の不安が子供を産まない1番の理由だからです。国の問題になるかとは思いますが、物価上昇や教育費の上昇で将来の見通しがたたないなかで、子供をたくさん産みたい人は少ないのではないのでしょうか。お金さえあれば、周りの支援があれば産みたい人はいると思います。子供が小さいうちは、まだよいですが教育費の不安などが大きいと思います。国や市は、もっとリアルな子育て世代の声を聴くべきです。世帯年収など親の年収で分断する、優しくない国で、誰が子育てをしたいと思うのでしょうか。
- 現在の日本、富士市の子育てに関する支援状況やサービスを見ると、少子化は当然予見できる未来であったと思う。
- 現時点で一番負荷に感じるのはなによりも金銭的な部分です。大卒で地方の中小企業に勤めても単身で生活するのがやっとなのであるのに、物価高、高い税金。その部分への対策がないと子どもを産み、育てていくことに前向きになることは難しい話です。
- 国の将来を考える事も悪くは無いが、目の前の現実で苦しんでいる子供達にもっと目を向け手を差しのべる為の対策をしっかりとってもらいたい。産まれて来る子供達は親を選ぶ事が出来ないし、産まれたからには自分達よりも幸せな人生を歩んで貰いたいと思う。
- 行政だけではなく、企業も大中小関わらず、子育てを支援するような環境が必要だとは思う。
- 国民の税金等の負担の軽減を実施すべき
- 今の政府では子供達が苦勞するだけで未来がない
- 保育料を3人分すべて支払ってきた世代の負担を考えて、せめて高校の授業料免除してほしい。本当に負担と不満でしかない。

- 産まれている子どもへの支援だけでなく、不妊の支援を手厚くしてほしい
- 産んで終わりではないことを念頭においた対策をお願いしたいです。
- 産休、育休者がいる職場や部署にはフォロー手当を出し、休む側も休まれる側も気持ちよく働ける制度を確立させてほしい。男女平等参画社会とはいえ、まだまだ子育てや家事は女性の仕事、お母さんがやるものという社会的風潮が大きい。日本の歴史的背景もあると思うが、そろそろ思考の段階から変革が必要。個人向けのベビーシッターを行政で推奨したり、家事代行サービスを行政で整えたり。
- 仕事と育児の両立のために時短など取得はしやすい職場だが、その分収入は減るので将来の教育費への不安はある。子育てや教育に関わる費用が軽減されればいい。年少扶養控除が欲しい。非正規雇用のため時短取得できる期間も短いためフルタイムになった時の不安はある。また小1の壁などよく聞くので、そこで時短が取れば良いのと思う。
- 子どもは国の宝だという考え方が当たり前になる世の中に変える為に、中学2年生くらいからの道徳や生活の教科の中に、赤ちゃんと親の絆や、子を思う親の気持ちや、未来の国を支えていくのが子どもたちなんだと授業で取り入れていくべき。そうすればいつかパート主婦が休みやすい職場になるし、きっと日本も子育てしやすい国に変わっていくと思う。
- 子どもは今後日本を担う宝なのだから、教育、医療、子どもに関わるありとあらゆるものの予算を、子どものために費やせば解決する。
- 「少子化対策」の根本は保育の充実であり待機児童が出ることがおかしい。まずは保育の現場に働く人を増やすべき。保育する大人が心身ともに豊かであれば自ずと接する子どもも豊かに育つ。それが出来ていないのに「少子化対策」しても意味が無い。
- 子育てがしにくい世の中です。教育費、物価が高騰していて何のために働いているのか分からなくなることがあります。非課税世帯やひとり親家庭だけが困窮しているように捉えられがちですが、共働き世帯もそれなりに困窮しています。子ども手当以外の手当の支給はなく、不平等さを感じます。税金も年々上がっていくし、その分給与が上がっていくわけではありません。少し対策を考えてほしいです。
- 子育てにかかる費用に対する支援を、もっと充実させるべき。
- 子育ての経済的不安を減らすため、給料の増加
- 子育て支援金を、子供一人につき月10万円、成人するまで、のような政策を取らなければ、実際問題解決にはいたらないと思います。
- 子育て世代向けの減税措置を行うことが大事だと思う。
- 子供の人数に応じた減税
- 子供は小さい時より大学などに費用がかかる。お金の問題で諦める子供達もいる。小さい時の事よりも進学などのほうが心配で子供を産まない選択をする方もいます。ニュースなどを見ると医療費、児童手当、保育園問題などは取り上げられていますが、大学費用や奨学金の見直しなどはあまり目にしません。これでは、子供を持つ事に抵抗を持つ人が増えても仕方ないと思います。
- 子供は夫婦二人の子供なので、女性と同じ様に男性がもっと家事育児に参加するべき。男性女性の意識を皆が変えないと変わらないと思う。特に年配の方達は昔の考えが根強いので、子育て世代は子育てしづらい世の中だと思う。
- 子供や結婚相手を養う余裕がない事による未婚・少子化が多いと思う。とにかく給料を上げてほしい。手取り13万で家族を養うなんて無理。
- 子供を作っても育児不安が多い

- 市からなど入るお金(出産一時金を含む)、妻の口座に入れるべきだと思う。子供連れで利用できる施設をもっと増やして頂きたい。マッサージ店、美容院などが託児所と連携したり、新幹線などは子供専用車両を設けたりなど。
- 市としては平等な施策とはならないが、子どもが多い家庭はもっと減税されたり、出産費用全額公費で最初から出していただいたり、祝い金という形でも市が出産を祝ってくれる雰囲気を出していく必要を感じる。子どもをたくさん育てている世帯をもっと優遇して施策明確に打ち出すべき。
- 市町村規模なら兵庫県明石市を参考にするべきと考える。国レベルでは、政府の異次元の少子化対策がどれだけの覚悟を持つかに掛かっていると思う。
- 私が子供を産むときは不妊治療に100万円以上かかりました。貯金は全て不妊治療に使い今は仕事も出来ないのでは貯金がありません。子供がほしくても不妊治療にお金がかかりすぎて諦めている人もいます。そういうところも手厚くしてほしいです。
- 私のようなヤングケアラーを支援する制度。
- 自分の周囲でも結婚したい、しても良いと考える人は多いが、そもそも出会いや交流の機会が少なく、その機会を増やさないと結婚まで辿り着かない人が多いと感じる。出会いや交流の場を多く設定できないか検討してほしい。
- 実効性の高い施策を行政主導で行うべき。例えば希望者には有料で夕食を配布し、保育園で受取できるサービスがあれば共働きにはすごく助かる。
- 実際親になると、早期幼児教育を意識せざるおえない程、周りが取り組んでいる。習い事の平均月謝を安くしたり、安くて質のいい教育が子育て世帯全員が受けられるべきだと思う。児童館を増やして欲しい。孫世代と関わりたいと思っているおじいちゃん、おばあちゃんが多いと思う。そういったシルバー人材の方々が、地域の公民館などで、寺子屋のようにお勉強やこま等の昔の遊びを教えて欲しい。
- 若い世代の収入が増えないと子供は産めないし、安定的な収入がないと育てられない。子供複数人育てるには大学無償化や、同等の学費支援がされないと育てられる気がしない
- 出産や子育てを地域で行えばよい。毎晩帰るところは家庭や親元だが昼間過ごすところや食事などは、地域に作ればよい。
- 出産出来る産婦人科が少ないのも、これから子供をほしい人には不安材料だと思う。
- 出産費用が高い。補助金あっても足りない。
- 所得が少ないのに、税金が高い
- 将来のこと(大学進学)を考えた上での意見ですが、そういう悩みで子どもを産むことを制限している方もいると思います。今はタブレット1つあれば家で学習ができる時代です。ですが、塾へ行かせたいが仕事の都合で送れない。塾へ行かせるために仕事をやめなくてはいけない。塾へ行かせるためには生活費を削らなければならない。様々な理由があると思います。5人産んで高卒でいい。ただ子どもが増えればいいだけの世の中ではないと思います。子どもを産むこと、育てることに責任を持つべきである親は子どもの夢の少しは叶えてあげなくてはならないと思います。もし子どもが大学へ行きたいと行った時の選択肢を小さい頃から手を差し伸べるべきだと思います。それには協力も必要です。塾への費用を市が負担する、学校へ直接塾の送迎バスが迎えに行くなどそういう支援があると大学へ行かせるための貯金もできます。申請や審査は学校で行うなどしてもいいと思います。
- 少子化に着目した場合ですが、既に子供のいる家庭にもう一人産むように促すのが1番効果的かなと思います。そのためには子育てしやすい職場を作りが重要だと考えられます。

- 世界的に見ても日本国民の平均所得は数十年間変化が無いのが大きな問題だと感じているので、とにかく給料を倍にするか税負担を極限に減らすべきだと思う。そもそも結婚以前に親元を離れて一人暮らしをはじめようにも、満足な収入が得られず税負担は増す一方、労働時間に縛られてしまっていては結婚生活を考える暇も無いと思う。日本の若い人は今を生きるだけで精一杯です。
- 税金を減らすか子育て支援金を出さないと、子供を産む以前の問題です。
- 全員が対象ではないが、出産育児で親を頼りたい時もある。その親が仕事していたら孫のための育休(出産の為に入院中の数日だけでも)を取得できたらいいと思う。
- 全体的な収入の向上と税負担の軽減。
- 対策より、何が今大切なのか、何故、少子化が起きているのか、すぐ答えは出ます。それはお金だと思います。
- 第2子からの保育料無料化は絶対に早急にするべき。給食費無料化も絶対。公園やプール、屋内の遊び場などもっと子供たちが遊べる場所を増やしてほしい。
- 夫が育休を取りやすくするのではなく、取得を義務にしてほしい。
- 男女ともに「こうあるべき」という前近代の男女観をなくして、息苦しさを感ずる日本の社会が変わらない限り、少子化は止まらないし、恐らくもう手遅れだと思う。ただ、経済的な不安で子供を育てることに抵抗のある人たちには、その不安を解消できるだけの経済的な支援をするべきだと思う。
- 男性に対する家事、子育ての意識改革をするべき。手伝うのではなく、自分がすべきことであるとの認識を持つようになってほしい
- 地域の役割や、幼稚園、小学校、中学校などの役員による負担が大きく、これらに参加することを面倒と思っている若者が多い。そのため、縮小し負担を減らしていくべき。
- 賃金を上げるべきである
- 統計的には、結婚すればほとんどの家庭は2人くらい子どもを持つことになるらしいので、婚姻数を増やすことが重要である。
- 働かなければならない世代の保育料が高額すぎる。お休みしたときの返金制度や減額制度がない。とにかく金銭的な問題で子どもを増やそうと思えない。
- 働きながら子育てできる支援(病児保育等も)が必要
- 日本経済の安定が少子化に繋がると思います。
- 妊娠や不妊、利用できるサービスを踏まえてライフプランを立てさせる授業が、中学か高校であってもいいと思う(自分の時にあればよかったと思うから)。
- 妊娠中、産後のどうしても働けない時期の収入の保証があれば妊娠できる。産んだ後に、年少に至るまでは保育園探しが思うように行かないとやはり経済的に困る。働いていても苦しい家計には、貯金を切り崩すか、親の支援がない限り無理
- 妊娠中の妊婦検診の完全無料化など、出産前からの経済的負担の軽減
- 年収が低下しているのに物価が上がり生活費が困窮しやすいので、まずは消費税を減らしてほしい
- 年少扶養控除の復活、高齢者偏重の世代間格差の是正が必要
- 年少扶養控除を廃止したのだから、児童手当に所得制限を設けるべきではないと思う。子は平等に、支援されるべきだ。扶養廃止の範囲拡大も、家庭の事情でどうしても扶養内でしか働くことが出来ない人もいるのだから、そこから財源を確保しないでほしい。
- 派遣社員を含む労働者の賃金の底上げと、若者の税負担の軽減をしなければ、そもそも結婚を諦める。実際に周りの知人が多数、経済的な理由で結婚、出産を諦めている。

- 不妊治療にかかる費用の負担の軽減や不妊治療をする医療機関への成功報酬制度の導入。
- 不妊治療への支援拡大
- 物価と税金と収入のバランスを整えるべき
- 物価高騰及び収入が少ない時もあり、心の余裕より金銭面の余裕が無い。
- 平均的に所得が低いことで、結婚を考えられない若者が多いと感じています。根本的な所得改革が必要と考えます。
- 保育園への入りやすさ、子育てしていても働きやすい職場の理解や職場への支援、小1の壁、給食費無償、学童給食提供など、これらが対策されないと少子化が進むと思う
- 保育士の給料を上げて保育所を充実させる
- 保育料第二子のカウントの仕方を見直す。
- 補助金の広報をもっと行うべき。
- 北欧のように、税金は高くても良いので、生涯に亘って公的に支援があれば良いと思う。
- 未婚や同性婚でも子供を持てる様にサポートするべきだと思う
- 養育、学費の支援
- 離婚後の経済的支援や婚活などイベントを実施

9. 次の少子化対策のうち、若い世代への取組について、あなたが重要だと思う取組を教えてください。

- 結婚しても子供ができるわけではないので子供を作るための重要性が伝わらないといけない
- 夢ではなく、現実の支援
- まずお金がない。生きるために働いているのか、働くために生きているのかが曖昧になっている。税金の支払いで精一杯なので、結婚に魅力は欠片もない。「結婚、出産、育児」のメリットよりデメリットの方が目立ついま、何をしても仕方ない。まずは人間力を育てワンオペ育児や見掛けイクメン等のイメージの抜本的な払拭から取り払わねばならない。
- 安心して不妊治療を受けることができるように、休職制度を作ってほしい（できることなら有給で）
- 学生のうちに、子育ての大変さ、素晴らしさをしっかりと伝えるべきだと思う
- 企業が、女性が子育てしながら働きやすい環境を作るべき。そのためには、産休育休を使用する間に代わりに仕事をフォローしてくれる同僚に対して、企業は手当や、評価がないため、同僚から冷やかな対応となり、働きづらい環境になる。少子化対策というが、子育てしている人ばかりが待遇よくするのはなく、社会全体の底上げをすれば環境改善すると思う。現に、自身も産休代替のフォローを数年行ってきたが、企業から手当すらなく、モチベーション下がるのみだった。社会全体を巻き込めば、みんなが環境よく、気持ちよく生活でき、少子化対策になるかと思う。
- 教育費の支援
- 金銭的支援
- 金銭的不安解消
- 金銭面だと思います
- 経済が安定しない限り子供を作ろうと思わない
- 経済的支援
- 結婚、出産後の経済的支援
- 結婚や出産に夢を持たせたとしても、それを叶えられるだけの経済力や知識が無ければ、先に幸せは

見えないと思います。まずはこれから家庭を築いていく人たちの支援が必要だと思います。また、結婚や出産に何が必要か、何をしておくの良いのか、それらを学んでから家庭を築いていくでも遅くないと思います。私の親は若くして私と姉を産み、数年後に離婚しました。家庭は崩壊していました。そのような経験をする人がこの先増えてほしくないと願っています。子育ての知識を蓄える講座を開いたり、結婚や出産、子育てへの疑問をぶつけられる場所があったら良いなと思います。

- 結婚以前に子育てが大変、お金がかかるというイメージが出来てしまっている。最近の若い人は自分にお金を使いたい人が多い。
- 結婚出産に対してコスパが悪いという意識を変えられるほどの金銭的支援
- 減税
- 高校までの手当、補助金の確保
- 高齢者ではなく若者への長期的な経済支援
- 今の20世代は、働く事もままならないです。本人が働く事を重要としていない。今すでに結婚している人達、これから妊娠出産育児を経験するであろう家庭を重視して対策していけば、良い見本を目の当たりにした若い世代に刺激を与えていくと思います。
- 産後の職場復帰支援。また、再就職先の充実化。オムツ、ミルクなどの消耗品減額支援。
- 子どもが大人になり、その子が負担する税金をいかに減らしていくか
- 子育てしやすい環境づくり 1人親とか関係なく、全ての子供が平等に自由に暮らせる環境整備
- 子育てと自分の時間（仕事や趣味、コミュニティなど）の両立の支援。自分の時間を犠牲にして子育てをする考えは古いと思います。仕事も趣味も子育てもバランスよくできるのが理想です。
- 子育てのしやすい環境づくり
- 子育ての負担の分散
- 子育て支援（施設や行政サービスや手当）の更なる拡大
- 子育て支援の充実
- 子ども参加型の教室などがあって、せっかくやらせてあげたいと思っても、子どもが3人もいると対応してくれないというものが多く、託児もないため、断念してしまうことが多い。結局家にこもってしまい、うつ病みたいになってしまう。
- 子供の用事や子供のことで休みにくい環境がある。休んでもいいというのは表面上だけ。逆にそれをうまく使って休む人もいるので、難しいと思いますが。
- 子供を育てる家庭への補助金制度、大学費用免除
- 支援を望む内容と、行政の支援がズレている。(的はずれなバラマキ)
- 社会人になって結婚して家庭を持つというキャリア形成についてのリテラシー教育が必要と感じます。
- 車両維持や携帯代、通信費など、昔よりも生きるためにお金がかかっているのに収入が増えていないなら、やはり子供を産み育てるのは厳しい。
- 若者以外の世代に対する経済的基盤の安定と雇用対策
- 住宅ローン減税のように、子供が産まれたら扶養控除以上の減税を。とにかく、子供を作る必要も余裕もないから。
- 出会い、交流の場の提供
- 出産と教育制度の無償化
- 出産育児に関する経済的援助
- 出産時だけでなく、出産後の支援(環境、経済、保育所等)

- 将来への夢を持てる環境作り。
- 少子化対策の一環として、経済対策を行う場合は、バラマキ等の小手先の景気対策ではなく、減税等の長期的持続的な経済対策が必要である。なぜなら、子育ては一朝一夕で終わることではなく、長期にわたるものであるから、対策には当然に長期的な効力が必要だから。
- 性教育問題を思春期までに取り組む。小4で1時間の命の授業では少なすぎる。また、独身時代からのパートナーとの在り方、夫婦の在り方、自分自身の在り方を考える機会を定期的に考える機会を作ることで、結婚や結婚後のギャップをなくしていける。一方だけではなく、双方が理解していることが重要。早期に離婚したり、計画不足な事態、我慢しての子育てが減り、虐待も減る。
- 大学までの教育費無償化
- 大学生や大学院生であっても子どもを産んで育てられる仕組みをつくる。
- 第三子以降への多大な補助
- 誰でも平等に婚姻関係を結び、偏見なく安心安定して暮らせる市政づくり。
- 地域のサポート。母親ばかりが育児をする当たり前をやめる。育児休暇開けなどのサポート。病児保育施設の拡大(定員人数が少なすぎる。それを市で支援できないのか)。
- 中小企業では、手取り15万円が当たり前でした。大手に転職して収入が安定後、やっと婚活を始める意識が芽生えました。企業が給与に還元しない以上、何をしても厳しいと思います。あと大学などが無ければ若者は集まりません。
- 不妊の原因は遺伝や体質的なものだけではなく、食生活などからくるものもあると思います。健康的な食べ物をもっとスーパーやコンビニに置くようにしたら良いと思います。無添加、無農薬など。本人たちの問題だけでは無いと強く思います。
- 不妊治療支援、不妊治療のための休業。
- 不妊治療等でお金がかかることはもちろんなのですが、子どもを産んでからの方がお金がかかるので、大学(専門学校)まで、夢を求めて安心して進学させてあげられる対策をしてほしい。親が自分を犠牲にして子育てしている人が多く、子育てを楽しむ余裕は無いので、余裕を作るサポートもあってほしい。家事代行サービスなど1時間千円で使える補助などありますが、仕事を離脱して子育てしている母親にとっては高いです。せめて500円にしてほしい。
- 富士市は家賃など高いのに、賃金が安いと思う。
- 保育園、幼稚園へのスムーズな入園
- 保育園を365日24時間体制にすれば、夜勤などがある医療従事者も安心して働ける。物価高と給料の兼ね合いが取れていない。

10. 次の少子化対策のうち、子育て環境について、あなたが重要だと思う取組を教えてください。

- こども食堂など民間の団体が運営しているが、自治体は補助金を出すだけでなく、自治体が直営で運営すべき。
- コロナの影響で就労、学習等が困難になった若者への補償金、奨学金無償化
- 日中は子育て支援センターや児童館、公園があるが、朝や夜の食事前後、入眠前後の支援サービスは無いように思う。またそこに支援が入るのも大変だから普及されていないのだと思うが。
- 安心できる環境として静かな街づくり。具体的には違反マフラー装着の騒音車の徹底排除
- 学童や、地域の見守り隊のような団体を増やす取組を望んでいます。高齢化が進み、時間に余裕

があるご年配の方が、日中の少しの時間を地域の子どもたちを見守る活動をすることによって、ご年配の方のやりがいにつながって元気になりますし、子どもたちも保護者も安心して過ごせると思います。

- 環境の整備より、支援金が必要かと。
- 子育て家庭への負担削減は、主に大学への負担にするべき。1番お金がかからない乳児期に負担しても親が使って肝心な子にはほぼ反映されていないように見受けられる。大学は子のためのもの。大学に進学したくても金銭面の関係で断念する人が多い。
- 企業、職場からの理解
- 虐待の防止
- 教育機関で働いています。年々、支援が必要な子どもが増えています。受け入れても職員が足りず、十分な支援が行えません。
- 経済的支援
- 継続的な資金援助
- 公園など子供を身近に感じる環境が近くにあれば良いと思います。
- 財政的支援、ベビーシッターが気軽に使える金銭的、人材的支援
- 子育てしている世帯は、その世帯に属する家族全員の税金を免除すべき。
- 子育て支援は充分だと思う。それよりも不妊治療への支援
- 子育て世代でない方や、子無し夫婦の方など、子供と関わらない方達の育児への理解が必要だと思います。子育て支援してくれる方は元々子育てに理解のある方で、現実育てる近所の方達の育児への理解、見守る気持ちが無ければ結局育てにくさは無くならないと感じます。
- 子供が少ないのに施設整備をしても意味がないので、子づくりの重要性を伝えるべき。
- 時短勤務でも安定した安心できる給与体制
- 若く妊娠して、父親がだれか分からず、未婚でも、みんなから子どもを授かったことを祝福される富士市であればよい。
- お金かかるのは学生から。学生の経済支援をお願いしたい。また、公立だけではなく私立もお願いしたい。好きで私立中に通っているわけではない。公立行ったら大変なことになると予想されるので、月謝が高いが環境が良い私立を選んでいる人もいる。
- 出産後も経済的に安心できるような支援や対策。
- 小学校や中学校の学校生活の充実が必要。
- 少子化対策は、新しく赤ちゃんが産まれる事が目的なので、多く産める家庭を一軒でも増やせるようにするためには、どんな子育て環境が必要なのか二人目以降を産んでいない家庭に聞いて対策を考える。そもそも子育て環境が原因ではない可能性がある。
- 障害を持った子を持つ家族への支援（病院、健診、美容院、歯医者、遊戯施設、預かる場所など行けない事が多い）
- 世帯年収や子供の人数に関わらず、平等に受けられる経済的支援。特に高校や大学進学にお金がかかるため、その世代への学習環境の保障が必要だと思う。
- 子育て環境が少子化対策につながっていると考えていること自体が大間違い。
- 発達障害の子どもの支援
- 病児保育施設、受け入れ人数の拡大
- 不適切な保育問題の解決
- 不妊治療の支援と理解

- 不妊治療への理解をしてもらいたい
- 福祉も充実すべき。優しい街でないと、住みたくないと思う
- 保育士や教師の賃金をもっと上げないと人材確保が難しいと思う。持ち帰りの仕事もあるし大切な命を預かる仕事だから割りに合わなくて今のままでは辞める人、将来保育士や教師になりたい人もいなくなると思う。
- 歩道や公園等をきちんと整備して、親や子どもたちが安心できる環境を整えてほしい。私は他の市町村から引っ越してきたが、富士市は他の市町村に比べて、道路や歩道の整備については著しく劣っている。きちんとした歩道が少ないため、安心して子どもを通学させられない。
- 明るい将来が何となく見えること、産んでもちゃんと育てられるという安心感を与えること。抽象的ですが、本質部分だと思います。

11. 次の少子化対策のうち、仕事と子育てについて、あなたが重要だと思う取組を教えてください。

- 8時間労働ではなく、4時間労働でも必要最低限な生活を送れるよう、社会か不必要なものを取り除いていくことにより、一人一人に余裕が持てる時間が増え、精神的にも肉体的にも健康的になり、子育てでも問題なくしていける
- そもそも共働かなくても大丈夫なくらい経済的に安定してほしい。
- 出産後も仕事をしたい人、子供を自分で育てたい人、それぞれが自分の希望通りの子育てを不安なく選択していけるよう、経済的支援と育休後や子育て後もキャリアをなくさず復帰できるようにするなどの支援が必要だと思います。
- 育児休暇の取りやすい企業の環境作り
- 学童の充実。短時間パートの人は学童に入れず、夏休みなど長期休暇の時に預ける場所がない。
- 企業や環境作りにお金を使うより、実際に困っているところへ支援したほうがいいと思う
- 企業を支援しても、リテラシーの低い企業が肥えるだけ。それよりも、子育て世帯への税制免除や、手当の拡充をすべき。
- 給与の底上げ
- 共働き世帯＝お金がある、わけではありません。
- 県や市が頑張っても、国民から税金を取るだけの政府を変えなければ何も変わらない
- 言葉ではなんとでも言える。実際は男尊女卑の会社なんて腐るほどある。子持ちの方への待遇ばかりを改善して、そうではない方への待遇は悪くなるばかり。
- 在宅で子育てしながら仕事ができるよう、企業にメスを入れて欲しい。在宅でできる業務はたくさんあるはず。スマホやパソコンで仕事をしたり、商品画像撮影、WEB系、デザイン系、色々あると思います。
- 在宅ワークの推進
- 産休、育休の充実
- 産休、育休者をフォローしている職場への支援
- 産休育休に入る職員の業務をカバーできるような業務の効率化や縮小する業務の検討、実施。
- 仕事と子育ての両立は、精神面でも時間の面でも本当に余裕がなく、一人で抱え込むのは子どもの健全やかな成長にとって悪影響だと思う。子どもが1歳の時から仕事をしている私は、子どもが小さいうち、出来れば3歳くらいまでは仕事をせずに余裕をもって子育てしてあげたかったなと未だに後悔し

ている。子どもは大好きだけど、こんな状態でもう一人子どもを産みたいかと言われたら、正直もういいと思う。育休制度の整備や若者の経済的支援などの取組が必要だと思う。

- 子どもがほしくても共働きのため不妊治療等に時間を割くことが難しい現状を改善してほしい。出生サポート休暇等の休暇制度もあるが、急に休まなければならないことや不規則な勤務でストレスも溜まり治療に専念できず治療をしていても良い結果が得られない。だからといって仕事を辞めてしまうと不妊治療費代が支払えなくなってしまうため、仕事を続けながらも治療を受けられる環境を作してほしい。(できれば有給で休職制度を作してほしい)
- 子どもが小さいうちは保育園に預けていても、急に病気になり早く迎えに行くことが多いと思います。しかし、それを迎えに行くのは決まって母親。その辺りの男性の意識改革、働く職場の意識改革が必要かと思います。肩身が狭い思いをするのはいつも女性なので。
- 子育てや男性育休などに積極的支援に取り組む企業への人材支援
- 子育てをしている世帯に働かなくても最低限の生活が出来るようにする制度作り
- 子育て家庭への手当 (毎月の給料として)
- 子育て期間は共働きしなくても良いくらいの経済的支援と減税の導入
- 子育て支援と少子化対策は切り分けて考えるべき。少子化対策という言葉を使うからには、もっと具体的に「子供の人数を〇〇人増やす施策」というように課題設定するべき。
- 子供が0、1、2歳で妻が働きにでなければ生活できない経済環境、それを推奨する社会を変えてほしい。家でもっと子供に寄り添った育児をしたいし、してほしい。フルタイムで働けば朝と夕の一瞬しか一緒に過ごせない。その合間に家事をこなす地獄を皆に強要しないでほしい。意識改革が必要。
- 子供の急な体調不良で休まなければならない時などに、それを言いやすい職場作り
- 子供を保育園等に預けられるまでの金銭面的な支援
- 時短勤務で収入が減ってしまう分を補助する仕組み。保育園は18時頃まで預かるのに学童は17時まで、いわゆる小1の壁を無くし、働き続けられる環境が必要。
- 自営業なので自由に休めるが売上が減るので気が引ける
- 自分は男性だが、しっかり育休がとれる環境を希望する。
- 社会が子育ての大変さを理解していない。そもそも、男が働いて、女が育児(家事)をするって考えの人がまだいる時点で、良くならないと思う。
- 社会人になった後でも、一般常識、性教育の筆記試験及び再教育実施
- 社内の託児所設置、育休制度の強制力
- 十分な収入
- 出来れば女性が働かなくても子どもを育てていけるだけの経済的余裕
- 女性が家事、子育て、仕事など全ての業務から完全に解放される休日をつくる。成功した場合、男性の休日もつくる。
- 女性が働かなくても家庭の経済を安定できる社会の実現。実際、お金の心配が無ければ、子供の小さいうちは働かないで育児に専念したいお母さんも多いのではないかな。
- 職種や職場にもよりますが、1ヶ月仕事に行かなかっただけで仕事のメンバー、やり方が変わったなどで仕事環境の変化により仕事を離れてしまったり、以前よりも仕事への熱量の減少も起こると私は思います。もちろん、それを乗り越えられる方も多くいますが、そうでない人やそれを乗り越えるまでの間に夫婦仲が悪くなるなどもあると思います。職場でのカウンセリングや相談センターの設置、もしくはハローワークでのそういったサポートなどがあれば良いのではと考えます。

- 職場、特に上司の理解
- 子育てを協力して行うのは親として当たり前だと思う。しかし、産休、育休を取りやすいよう、代替の職員が一定数確保されていることが前提だと思う。代替職員の待遇を高めるべき。
- 専業主婦の奨励
- 大学まで学費免除。人材への投資を惜しむことは、衰退へとつながる。優秀な人材を国策として育成することが、将来の日本のためになると思います。
- 男性、女性ともに産休、育休制度を積極的に取得してほしいとの行政の施策があるが、休暇を取得した際の収入の減少が一番のネックである。これを解消しない限り、解決はしないと思う。
- 同僚の産休育休取得により、負担を背負う残された社員への支援
- 妊娠出産、子育て中に母親が働かなくてもよい環境づくり。子育てが落ち着いた後の社会復帰支援の方が大事だと思う。母親には安心して穏やかに子育てできる環境が非常に大切だと思う。子育てという仕事をしているのに、更に仕事家事は少子化の一因になっていると思う。
- 病児保育の充実
- 病児保育施設、受け入れ人数の拡大
- 夫婦以外で子育てに協力してもらえる外部サービスが充実すると助かる。夫婦だけで子育てをすると必ずどちらかが対応することになり、多くの母親がキャリアを諦めることになるため。
- 父親になる人は1週間10キロの重りをお腹につけて、過ごさせるべき。そうすれば、育児にむかう姿勢も変わる。まだまだ母親だけが育児の責任を押し付けられている。
- 片親が働くだけで配偶者と子供を十分養うことができる給与を与えること。
- 保育環境が整っている施設への受け入れ人数上限を増やし、待機児童を減らすべき。仕事、子育てを両立したくとも預けられないなら意味が無いし、保育現場にとっても預かる人数上限が上げて貰えず泣く泣くお断りするの悲しいし嫌だ。
- 毎日の子育てや仕事の辛さをケアすること。

12. 次の少子化対策のうち、情報の伝達について、あなたが重要だと思う取組を教えてください。

- LINEで配信するなど。(浜松市の子育て情報サイトびっぴのLINE配信を利用している)
- SNSを活用した情報発信(Line、インスタ等)
- twitterを利用した子育て支援の情報伝達
- いつでもどこでも、わかりやすい情報にアクセスできる状態にすること
- よくある困りごとなど、身近な問題の解決法や相談窓口
- 押し付けがましくないシンプルで分かりやすい情報発信を求めます。
- 会社で子育て情報を得られるような機会を作る。身近に、気軽に知られるようにする。
- 学校での教育。学校の性教育で避妊については詳しく学んだが、人を愛し子どもをもうけることの素晴らしさについてはほとんど学んでこなかった。出産には適齢期があることももっと広く知ってほしい。しかし、デリケートな内容であるため、電車広告などにはしづらいし、なかなか子どもを授けられないなどの問題が起きてからネットで情報を調べ始める人が大半だと思う。そのときには手遅れのことも多いと思う。不妊治療をする医者は患者を傷つけないからはっきりとは言わないが、現実問題はそこだと思う。だから、義務教育などの教育を受けるための場所で早期にもっとしっかりと教育をしておく必要があると思う。

- 職場から情報提供して貰えると参加しやすい。
- 支援制度の SNS 活用
- 若い人達の悩みをチャットで気軽に受け答えできるシステムを作ってあげてほしい。
- 手当などの制度の情報発信
- 情報ではなくお金。
- 情報の発信側も受信側も労力を使わないで、かつシンプルな情報伝達ができるシステム
- 情報を取得するにあたって、技術の得手不得手による情報格差、サービス格差が生まれないようにしてほしい
- 子育て支援センターや児童館に出向いている人は自然と情報が入りやすいのかもしれない。移住して家族や友人と離れている方は、出るのに大変だと思う。また、産後はどうしても家にこもりがちになるし、子育てが大変でそういう情報を目にする余裕も無いと思う。家事サポートの料金を生後すぐから首が座るまでの間、生後 100 日まで安くして、ママが手を空く機会を増やすのが重要だと感じる。
- 情報過多の時代、知りたければ色々と調べ詳しくなれる。その中で医者や保育者に質問出来ない引っ込み思案の方への現場からの適切な返答ができるシステムがほしい。
- 情報過多の時代のため、情報発信元の一本化。
- 情報伝達よりも、まずは子育て世帯への支援をしてほしい。
- 情報発信よりも、お金の余裕ができない限り、結婚や出産はない。
- 申請しなければ享受できない権利はない方がよい。要件に該当する子育て世帯には、もれなく補助がいきわたるように、制度を見直し、情報発信を行う。
- 迅速な伝達
- 正しい情報の発信
- 対象者への確実な情報伝達
- 特別な少子化対策をやっているなら、そのアピールをもっとしてほしい。
- 発信する側の発信の仕方と内容のわかりやすさ

13. 少子化対策として市が検討している事業を含めた、次の選択肢のうち、優先的に取り組むべきと思うものを教えてください。

- 0 歳児から義務教育まで保育料、給食費無償化
- 自分自身は高齢気味での出産だったので、2 人目は考えませんでした。だからこそ、根本的に女性に若いうちから子供を産んでもらうということが、解決策だと思うので、その辺りをアピールすれば良いと思います。
- 大学への費用負担を優先すべき。
- お金を配るのはあまりしてほしくないです(無償化はいいと思います)。賛否両論あるかと思いますが、多様化する育児への要望を 1 つずつサービスという形で提供してほしいと思います。大変かと思いますがよろしくお願いします。
- 一番の問題は非婚と晩婚化である。結婚する女性が少なくなっていて、結婚するにしても初婚年齢が上がっているから子供の数が少なくなっている。そこをどうにかしなければならぬが、憲法では婚姻は両性の同意をもってなされるものであるもので、無理矢理結婚をさせることはできない。だから、そもそも子供の数を増やそうと考えていること自体が間違っている。子供の数が減っても、持続可能

な社会を構築していくことに注力した方がよい。

- ただお金をばら撒くのではなく、医療費や教育費、保育料の補助や無償化を行う方が本当の意味で子どものためになると思う
- プレイパーク、自然の中で遊べる場の増加、フリースクール、オルタナティブスクールのような学ぶ環境の多様性
- まず産もうと思ってもらえるような対策も必要ですが、産んだら終わりではないので乳児、幼児への支援だけでなく子供が多い家庭にはその後も支援してもらえると助かります。たしかに保育園の保育料は大変でしたが、高校生の子が1番お金がかかります。授業料も今無償化なんて言っていますが、共働きだとももらえないのが現実です。子供はもう1人ほしいですが、現実的に無理です。
- マッチングアプリとの行政のタイアップ
- 屋内アスレチックを増やしてほしい
- 学校給食無償化
- 義務教育をより低年齢からスタートし、無償で行う。食事は地域で用意。大人料金のみ設定する。困窮世帯や単身子あり世帯、障害者へは無償などのオプションも付ける。
- 義務教育終えるまでの完全無償化
- 給食費と中学までの学費の無償化
- 給食費の無償化をしてくれたら、とても嬉しい。
- 教育に関する事の完全無償化。高校生までにかかるものの完全無償化。
- 教育関係費用の無償化
- 教育費の助成(大学など)
- 経済的なことだけでなく、治安や交通においても安全なまちづくりをしなければ、このまちで子育てする気がなくなってしまう。単に住宅や工場を増やせば、人口が増えるわけではない。歩道や公園等は整備されているのか。子育て層に対して、安全なまちづくりができてきているのか点検してほしい。都市計画においても、この点の考慮が必要ではないか。
- 経済的な子育て支援の充実
- 高校、大学とお金がかかる。その時の支援や、高校無償化。
- 高校、大学などの教育費の無償化
- 高校、大学の費用も大きい
- 高校の無償化 成人までの経済的支援
- 高校までの学費無償化
- 高校生まで支援の充実
- 子どもへの経済的支援が増えても、大人に経済的負担が増えれば何も意味ありません
- 子ども手当の増額
- 子育て、子供との生活の魅力を伝えて行くこと
- 子育て支援で月々5万円とかお金を配布してほしい。
- 子育て中の時短勤務推奨や有給休暇の増加、子どもの体調に合わせて気軽に早退できる環境の提供
- 子育て給付金
- 子育て世帯の減税
- 子供が小さい時より大きくなってからの方が金銭的にかかるので、高校や大学を対象とした金銭的対応をしてほしい

- 子供に対するお金ではなく、結婚する人を増やすべき
- 子供の医療費は市によって差があり、平等にすべきだと思う
- 子供の外での遊び場の整備
- 子供手当の増額
- 実体験から、男の子の遊び場充実は大切だと感じる。私は2歳差で男の子ふたりなので、家がアスレチックみたいになってしまう。遊びがエスカレートすると喧嘩も多く、家も散らかるので、仲介や片付けに心身共に疲弊します。最悪な事に夕方の食事から寝付くまでは1番大変だと感じますし、そこに仕事で疲れたパパも帰宅して子供に対して夫婦共に溜息が多くなる時間帯です。愚痴に近くなって申し訳ないですが、遊び場の充実。地域で見守れるサービスや場所の提供。見守る方々の子供に対する意識、知識の充実があると母親は安心出来ると思います。私は看護師なので子供には障害有り無し問わず個性があるものだと教えてもらったから、元気過ぎる子供達もみられますが、知らなければ公園や子供が集まると煩いと思う人もいるかもしれません。話が長くなって恐縮ですが、市内の遊び場の充実。周りの方々の理解。双方必要だと思います。
- 手当て等は第一子から充実すべきと思います。主食の無償化ではなく給食の無償化が望ましい。祝い金はあると嬉しいけれど、それを目当てに産むだけ産んでおしまい、なんて事が増えそうで怖い。
- 首都圏の大学に通う際の新幹線交通費の補助。せっかく新幹線があるのだから活用すべき。これが実現されたら、子供を育てることにに関して本当に魅力的な場所になると思います。
- 受診しないといけない場合もあるが、医療費は無償にしまうと、無駄に受診することが増えると予想できるので、逆に健康に生活できたご褒美的なことがあったほうが良いと思う。また、第2子と限定せず全員平等に保育料無償化のほうが子育て家庭は感謝すると思うし、働く意欲も湧くと思う。しかし、こんなに沢山富士市で検討してくれて嬉しいです。ありがとうございます。
- 住宅街への小規模公園をつくる。道路に歩道を作る。雨の日でも子供が遊べる環境の整備。
- 出産に関わる費用の無償化
- 出産費用と不妊治療の保険適用導入。子育て世代の減税等経済的支援
- 出産費用完全無料、産休育休をとる女性の収入を、働いている時の8~9割貰えるようにする
- 出生祝い金は別にいらないと思う。個人に与えるのではなく、まちづくりセンター等で勉強をみる、外での遊び場を作る、子どもが相談できる人を雇うなど
- 出生祝い金やコロナ禍にみられた支援金などのような一時的・短期的なものではない、持続的・継続的な経済負担軽減の措置や、支援、枠組み作り。
- 所得が増えるほど保育料が増えていくのはおかしい。実際に保育園で子どもが受ける保育によって料金が決められたり、人手の必要性などの現場基準で決められるべき。親の収入で料金が判断されることなく、子ども一人当たりの単位は同じであるべき。
- 所得に関わらず、保育料を一定額にすべき
- 小さい子がいる家庭だけの対策にしか思えない。大変なのは小さい子がいる世帯だけではない。そこへ対してのフォローが何も無いことも、子育てのしにくさに繋がっているのではないか。
- 小さな子のみではなく、実際にお金がかかってくる高校生・大学生の子どもがいる家庭にも対応した政策を出してほしいです
- 小学生と中学生の給食の無償化
- 小学生以上の支援も検討してほしい
- 小中高の入学時に入学祝金のような補助金みたいなものがあると助かります。制服代や体操服、カバ

ン、教科書など色々お金がかかるので。

- 少子化対策とかの前に税金ばかり上がって、自分たちの経済的に安定しない。
- 条件付きでもいいので大学までの学費免除
- 全国的に「魅力的なまち」は医療費がかからない施策が取られてきている。先駆けて取り入れれば、他地区のファミリーが転入する選択肢に富士市も入るかもしれない。
- 大学資金の援助や所得制限などのない無償貸付
- 第一子から保育園無償化
- 第一子が卒業すると第二子が第一子になる制度をやめ、そのまま制度運用するようにしてほしい
- 第三子からの給食費無償を年齢差の制限なしにしてほしい。
- 第三子以降の保育料の見直し、3歳以下の保育園の利用人数の拡大
- 第二子の支援を手厚くする前に、第一子の支援を手厚くするべきだと思う。
- 中高生への支援。子供が小さい頃はあまりお金もかからないので、新生児や幼稚園、保育園児への支援ばかりしても何も意味がない。小さい時は支援があったが、大きくなったら支援がなくなるとしたら、その先にかかるお金に不安が大きくなるばかりだと思う。
- 通学路の整備
- 低年齢を対象にしているが、年齢が高くなっても発達障害でお金はかかる、時間はかかるのでサービスするなら年齢対象をあげてほしい。
- 東部には病児保育室、小児科が無い。地域格差をどうにかしてほしい。市の中心部のみが住みやすくても人口は増えないと思う。
- 入学祝い金（保、幼、小、中）
- 妊娠時にかかる出産費用の軽減、補助金制度
- 病児保育
- 不妊治療などの無償化
- 不妊治療に対する国や自治体による全額負担
- 不妊治療の充実した婦人科
- 不妊治療の保険適用
- 不妊治療をする方もいるのに、二人目から無償とかやめて頂きたい。
- 物価高騰による家計の圧迫を解消してほしい。
- 保育園の隠れ待機児童ゼロ
- 保育園の無償
- 保育園や幼稚園、公立小学校までの費用無償化。
- 保育園や幼稚園の子はまだ小さいからお金が全然かからないと思います。幼児に対して支援ではなく大学生や専門学校行っている子達の支援をすべきと考えます。そのような子達は、将来誰かの役に立ちたいとか様々な理由をもって、義務教育を終えその後も勉学に励んでいます。大学生や専門学校の子たちはお金がかかります。幼児に対してたくさんの支援をするのではなく、18~22歳までの子達の事をもっと考えてほしいです。
- 保育園や幼稚園の利用料無償化
- 保育園完全無償化、その後の学費も完全無償化
- 保育園料、幼稚園料の完全無償化
- 保育士の処遇改善

- 保育士や学童保育のスタッフの待遇改善、人材確保と環境改善
- 保育料も収入で変わりますが、働いた分取られてしまう。保育士さんの給料も安すぎる。医療費も保育料も大事ですが学費等も思っている以上にかかる。就学前、小学生だけではなくそれから先が1番お金がかかる。塾や部活、補助のないところでの出費がかなり大きい。このようなところから格差ができてしまう。
- 未就学児優先の少子化対策でなく、お金がかかる中高大学生を抱えている世帯を支援する対策をしてほしい。その世代への経済的負担を解消しなくては、先を考えて子供を産み育てることへの不安が大きい。
- 無償化はありがたいが、それでは足りないと思う。もっと手厚く手当など出すべき。
- 無償化や支援金の資金源は私たちです。奪われ続けているのに、子供を産めと言うのは理解できません。
- 無償化や支援金をいくらやっても少子化は止まらないと思う。まず全体的に給料が底上げされないで子供を養う余裕ができない。
- 明石市のようにしてほしい。給食費無料、子供の医療費無料などしないと富士市で子育て、生活していくメリットが何もない。
- 幼稚園、保育園だけでなく、その後の大学卒業までを考えた対策をしてほしい。子育て世帯は、子供を社会人になるまで費用はいくらぐらい掛かるのか等を考えてしまいます。幼稚園、保育園は無償でも、その後のことを考えると、2人、3人と子どもが欲しくても、踏み出せない人が多いと思います。また、特に子どもが幼稚園、保育園に通っている場合、風邪などのときは、父母どちらかが休暇を取得して、看護しなければなりません。病児保育などの充実も必要かと思います。
- 幼稚園、保育園の先生の給料を上げて優秀な人材を確保すること
- 幼稚園の時などは周りも理解してなんとかなるが、小学生中学生のときに女性が継続して働きにくい
- 幼稚園や保育園だけ対象ではなく、小学校や中学校など義務教育のうちは対象に入れてもらいたいです。
- 幼稚園・保育園だけではなく、小学校中学校の子どもに対しても支援を広げてほしいです。
- 希望の保育園に入れる仕組みづくり。